

経営比較分析表

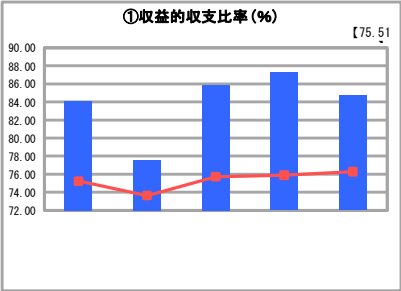
京都府 宮津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	25.69	2,741

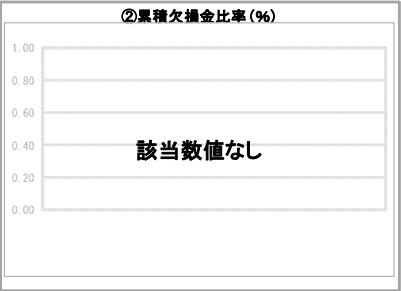
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,116	172.74	110.66
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,873	22.30	218.52

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



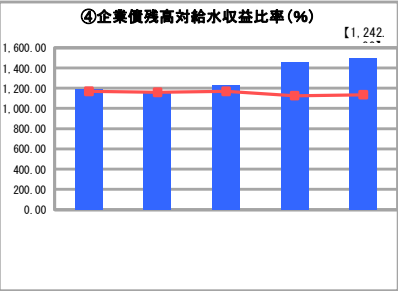
「単年度の収支」



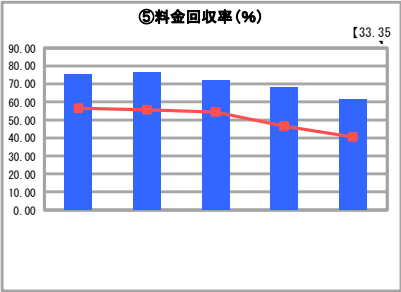
「累積欠損」



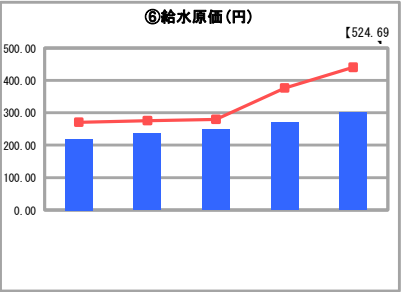
「支払能力」



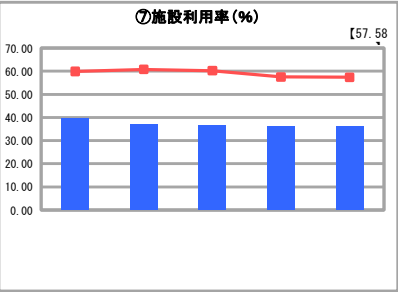
「債務残高」



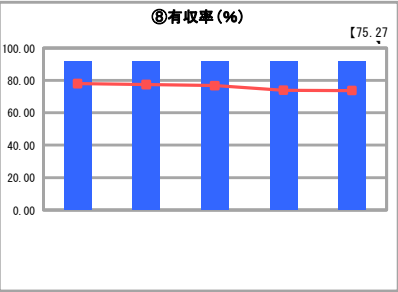
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

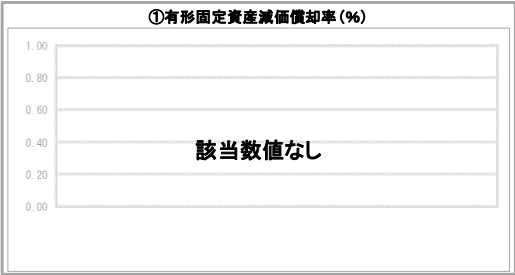


「施設の効率性」

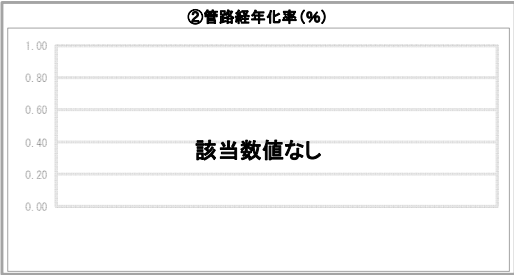


「供給した配水量の効率性」

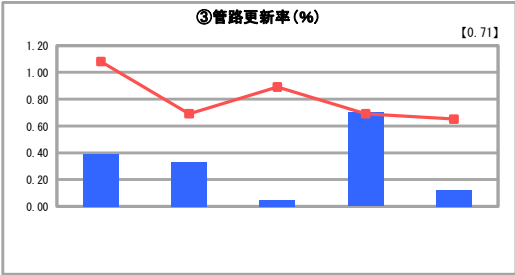
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
H23に料金改定を実施したこともあり、類似団体と比較すると高い比率で推移しているが、一般会計からの基準外（赤字補てん）繰入も含まれており、更なる収入確保と経費抑制を図る必要がある。

④企業債残高対給水収益比率
施設の統合整備や老朽石綿管の布設替等を積極的に実施しており、類似団体と比較すると高い比率となっている。

⑤料金回収率
H23に料金改定を実施したこともあり、類似団体と比較すると高い比率で推移しており、適正な料金水準を確保している。

⑥給水原価
高利率企業債の繰上償還等により、現在のところ、一定の費用の効率性は確保している。

⑦施設利用率
給水区域は山間部集落等人口が少ない地域が多く、施設能力に対する配水量が少ないことから、今後、小規模施設の統合整備等により改善を図っていく必要がある。

⑧有収率
現在のところ、類似団体と比較すると高い比率で推移しているが、老朽石綿管の布設替等により、更に改善を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

③管路更新率
石綿管を中心として布設替を行っているが、小規模施設の統合整備に集中投資しているため、類似団体と比較して低い比率で推移している。

石綿管の布設替についてはH30に完了予定であるが、石綿管以外のものについては、H30以降の水道事業との経営統合に向け、一体的な更新計画を策定したうえで、順次更新を行っていくこととしている。

全体総括

現在のところ、経営の健全性、効率性は一定確保しているが、給水人口の減少、老朽化施設の更新など経営を取り巻く環境は厳しい見通しとなることから、H30以降の水道事業との経営統合を見据えながら、更なる経営改善を図る必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。